

自動車産業政策研究会の 新顔ぶれ決まる

会長に高島直樹氏が就任

東京都議会自由民主党

東 京都議会自由民主党はこのほど、いわゆる自動車関連議員連盟の流れを汲む「自動車産業政策研究会」のメンバーを5年ぶりに一新した。それによると、都議会自民党の歴史20期(80年)を迎えた今回は、研究会の顧問、相談役ポストを空席にして、会長には自由民主党東京都連の幹事長を務める高島直樹議員が、また幹事長には、都議会自民党幹事長の秋田一郎議員がそれぞれ就任した。全体の人数はこれまでの計12名から9名にと3名減り、コンパクトながら精鋭を集めた布陣とした。

◇自動車産業政策研究会の新しい顔ぶれは次の通り(敬称略)。

▽会長＝高島直樹(足立区選出)▽副会長＝吉原修(町田市選出)、高橋信博(小平市選出)、中屋文孝(文京区選出)▽幹事長＝秋田一郎(新宿区選出)▽幹事＝宇田川聡史(江戸川区選出)▽事務局長＝山崎一輝(江東区選出)▽事務局次長＝菅野弘一(港区選出)、清水孝治(立川市選出)

[東京都自動車会議所]

燃料電池車や 水素ステーションの整備を 九都県市が政府に要望書提出

補助制度の継続や規制緩和も

東 京都など首都圏の九都県市はこのほど、政府に対して「水素・燃料電池戦略ロードマップ」に沿った水素社会の実現に向けた取り組みについて要望書を提出した。要望は九都県市首脳会議での合意に基づき、加山俊夫・相模原市長、上田清司・埼玉県知事、森田健作・千葉県知事、小池百合子・東京都知事、黒岩祐治・神奈川県知事、林文子・横浜市長、福田紀彦・川崎市長、熊谷俊人・千葉市長、清水勇人・さいたま市長の連名で、世耕弘成・経済産業大臣、石井啓一・国土交通大臣および中川雅

治・環境大臣に対して行った。

◇要望書(11月14日付)の内容は次の通り。

持続可能な社会の実現に向けた地球温暖化対策が世界的な共通の課題になっている中、利用の段階で二酸化炭素を排出しない水素エネルギーは、家庭用燃料電池(エネファーム)や燃料電池自動車としてようやく実用段階に入った。こうした水素関連製品はわが国の高い技術力の結晶であり、水素エネルギーの普及による経済波及効果は大きい。さらに、燃料電池自動車や燃料電池バスなどは、災害時の非常用電源としての利用も可能である。

わが国では燃料電池自動車の市販が平成26年に開始され、水素ステーションの整備が進むなど水素エネルギーをめぐる企業の動きは日々活発化している一方、コスト低減、インフラ整備、規制緩和、さらなる技術開発など多くの課題があり、官民一体となった水素エネルギーの普及拡大が求められている。また、ラグビーワールドカップ2019や2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機に、国内で水素エネルギーの普及拡大を図ることは、わが国の環境先進技術を世界に対しアピールすることになる。

全国人口の約3割を擁する九都県市首脳会議の構成自治体では、こうした課題を踏まえ、水素エネルギーの普及に向け、様々な取り組みを展開しているところである。

国におかれても、平成28年3月に改訂した「水素・燃料電池戦略ロードマップ」に沿って、水素エネルギーの普及に向けた着実な取り組みを進めることが必要である。そこで、特に次の事項について国に対して要望する。

1 水素ステーション設置・運営に係る補助制度の継続・運用の緩和

燃料電池自動車の普及には、車両の普及に並行した水素ステーションの整備が不可欠であることから、「水素・燃料電池戦略ロードマップ改訂版」に沿い、水素社会の実現に向けて、水素ステーションの整備を着実に推進し、水素ステーションの設置・運営に係る財政支援を継続的に行うこと。

併せて現在、国の補助金を活用して整備した移動式水素ステーションについて、その運用箇所は、現在2カ所までとされているが、近隣に水素ステーションが存在しない「空白地域」を早期に解消

するため、既存の運用箇所¹に支障のない範囲において、追加などを認めること。

2 水素ステーションに係る規制緩和の更なる推進

「水素・燃料電池戦略ロードマップ改訂版」に掲げる水素ステーションの整備目標（2025年度までに320箇所）を達成するためには、さらなる整備拡大に向けた規制緩和などの措置が必要であるため、安全性の確保を前提として、「規制改革実施計画（平成29年6月閣議決定）」に掲げる規制見直し項目を着実かつ速やかに推進すること。

3 燃料電池バスの普及促進策

東京オリンピック・パラリンピック競技大会に移動手段として、環境面で期待される燃料電池バスが市場投入されたことから、将来的な燃料電池バスの普及目標台数を早急に示すこと。あわせて大幅なコストダウンが進むまでの期間、購入者などに対する国による補助制度を継続し、予算規模も拡充すること。特に平成29年度「地域交通のグ

リーン化に向けた次世代環境対応車普及促進事業」において引き下げた燃料電池バス車両導入への補助割合について、速やかに従前の水準（2分の1）に戻すこと。

また大量の水素需要が見込まれる燃料電池バスに対応する水素ステーションの整備への財政支援を継続的に行うとともに、既存の水素ステーションにおけるバス対応などに伴う設備改修などについても支援を行うこと。

4 燃料電池の用途拡大

燃料電池車両の普及促進に向けては、多くのユーザーのニーズに応えられるよう、燃料電池自動車や燃料電池フォークリフトをはじめとする産業用車両の用途拡大及び車種の多様化を図るとともに、その他燃料電池技術を活用した新たな製品の開発に対するメーカーなどへの支援を実施すること。

〔東京都自動車会議所〕



富 山県自動車会議所は10月14日、11月11日の両日、富山市の富山県運転教育センターで「エコドライブ^{くるま}車塾」2017を開催した。同塾は11月の「エコドライブ推進月間」に持続可能な社会を目指すために取り組む今年で9年目となる事業であり、地球温暖化の最大原因がCO₂（二酸化炭素）である現状の中で「エコドライブ」には明日への地球のために大きな可能性があると考え、「エコドライブ」の具体的な実施方法やその効果・影響を自動車ユーザーが理解・修得することを目的としている。

近年ガソリン価格高騰が続いているが、エコドライブは誰もがすぐに取り組める、家計（エコノミー）にも環境（エコロジー）にも大きな効果の出る運転技術である。リーフレットやステッカーでエコドラ

イブの必要性・重要性を理解するだけでなく、エコドライブの運転技術を当塾でしっかりと修得し、日々の生活での定着へとつながる「エコドライブの実体感」をキャッチコピーに開塾した。

日本自動車連盟（JAF）富山支部の協力（座学講師・インストラクター）のもと、富山県・富山県警察本部・北陸信越運輸局富山運輸支局が後援した。当会議所のホームページをはじめ、「エコドライブとやま推進協議会」の会長を当会議所の桑名博勝会長が務めていることもあり、富山県、とやま環境財団の両ホームページでも参加塾生を募集し、さらに県内各市町村の広報にもプレスリリースを配布した。

参加者は、自動車ディーラー・一般企業社員や経済同友会会員・関係団体職員などの38名。また、昨年参加した「地域・職場のリーダー」の3名がインストラクターとして加わる継続的なカリキュラムを採用した。カリキュラムの実施内容は以下のとおり。

1. 座学及び実地

◇一般塾生30名＝①地球温暖化防止に対する「座学」、②エコドライブ技術の走法、得られる効果等の「座学」、③通常走行・エコドライブ走行の実地、計測、④走行後の燃費データの比較、検証（分析結果とその指導等をグループごとに地域・職場のリーダー・受講生よりアドバイス）

◇地域・職場のリーダー5名=①「通常運転走行」の見学・学習、②燃費計測機の使い方講習会・一般塾生への指導方法、指導チェックポイントの再認、③一般塾生練習走行(1周目)、地域・職場のリーダー・受講生による見本走行・レクチャー、④走行後の燃費データの比較、検証(分析結果とその指導等・グループごとにディスカッションタイム)、地域・職場のリーダー・受講生によるアドバイスサポート

2. 修了証の交付

◇「全課程およびエコドライブ指導員修学課程」修了証……5名

◇「全課程」修了証交付……30名

3. 結果

当日は、当会議所の竹橋和夫専務理事のあいさつを皮切りに、はじめに地球温暖化防止に対する「座学」を行い、その後、同センター1.5kmの運転免許試験コースで燃費計測装置を取り付けた車5台で通常走行とエコドライブ走行を行い、各燃費を計測し、データの比較と分析・検証をグループごとでのディスカッション方式で行った。最後に竹橋専務理事より、成績優良者に修了証授与が行われた。

参加塾生全員の燃費改善が見られ、「地域・職場のリーダー」がインストラクターとして加わる当会議所オリジナルの継続的なカリキュラムの成果が出たと感じられる、大変に有意義な塾となった。

【結果】

・ 1ℓあたりの平均伸びkm数(改善km) ……2.77km/ℓ(30名)
・ 平均燃費改善率……19.6%(30名)
・ 改善率最高値……56.8%

訃 報

住友ゴム工業元社長
(当会議所会員元代表者)

横瀬 恭平氏

住友ゴム工業元社長の横瀬恭平氏が11月7日、逝去された。99歳だった。横瀬氏は、昭和55年3月代表取締役社長、昭和60年10月代表取締役会長に就任され、平成3年3月取締役相談役に退かれた。

エコドライブで 明日への架け橋を。

明日の地球のために、
明日の自分のために。

START!
ECO DRIVE



エコドライブ10のすすめ

- ① ふんわりアクセル「eスタート」
- ② 車間距離にゆとりをもって、加速・減速の少ない運転
- ③ 減速時は早めにアクセルを離そう
- ④ エアコンの使用は適切に
- ⑤ ムダなアイドリングはやめよう
- ⑥ 渋滞を避け、余裕をもって出発しよう
- ⑦ タイヤの空気圧から始める点検・整備
- ⑧ 不要な荷物はおろそう
- ⑨ 走行の妨げとなる駐車はやめよう
- ⑩ 自分の燃費を把握しよう

エコドライブ
しよう!

日本自動車会議所